

物流における環境配慮

グローバルにサプライチェーン全体を見据えた物流の合理化・効率化を推進し、物流に伴う輸送CO₂排出量の削減を推進しています。

グローバルな「グリーン物流活動」の推進

富士通グループでは、グループ各社の物流部門が連携し、製造部門や営業部門とも協力しながら、輸送に伴うCO₂排出量の削減を推進する「グリーン物流活動」に取り組んでいます。また、お取引先とのパートナーシップを活かし、サプライチェーン全体にわたって物流に伴う環境負荷の低減に努めています。

富士通グループでは、第6期環境行動計画で「国内輸送CO₂排出量を2012年度末までに2008年度比で15%削減」を目標としており、モーダルシフトの拡大やトラック台数の削減に取り組んだ結果、2011年度には2008年度比24%削減（物量変動・震災の影響を含む）を達成することができました。2012年度についても引き続きCO₂排出量の削減に取り組み、最新の物量状況を踏まえた実行ベースで、2008年度比24%削減を目指します。

また、国際輸送CO₂排出量や海外拠点における輸送CO₂排出量の計測にも着手しており、グローバルでのグリーン物流活動を推進しています。

国内輸送CO₂排出量推移（富士通グループ）



モーダルシフトの適用拡大

富士通グループでは、モーダルシフトによるCO₂排出量の削減に取り組んでおり、部材の調達から製品輸送において、鉄道の効果的な活用や、航空便輸送から陸上輸送への切り替えを進めています。

富士通は、2011年3月に「エコレールマーク企業」認定を取得し、2011年度も継続して鉄道輸送を積極的に利用しています。



2011年度には、株式会社NTTドコモ様向けに加え、KDDI株式会社様向けの携帯電話も従来のトラック輸送から鉄道輸送に切り替え、鉄道輸送の拡大を進めました。

トラック台数の削減

2011年11月から、個人のお客様向けパソコンにおける国内輸送ネットワークを、東京に集約するルートに見直しました。これにより、工場から東京までの幹線輸送で法人のお客様向けパソコンとの積み合わせ輸送を拡大することができ、トラック積載率の向上、トラック車両台数の削減が実現しました。

保守物流サービスインフラの革新

保守部品サービスインフラの革新による、お客様へのサービス向上・環境に配慮したグリーン物流の推進に取り組んでいます。その一環として、全国の保守部品を管理するパーツセンターのリロケーションを推進。お客様・フィールドCE（カスタマ・エンジニア）近隣地区へパーツセンターをリロケーションすることにより、お客様への部品配送時間の短縮を実現しました。

また、フィールドCEがパーツセンターに立ち寄り、保守部品を持参する方法を推進することで、パーツセンターからお客様までの配送削減を実現し、CO₂排出量の抑制を図っています。

国際輸送の取り組み

富士通グループでは、国際輸送におけるCO₂排出量の測定を2008年度から開始し、削減活動に取り組んでいます。

例えば、モーダルシフト（航空輸送から海上輸送）、輸送距離の短縮、コンテナ充填率の向上、航空輸送の輸送回数削減などを実施しています。

富士通テン株式会社では、グループ会社間や部材調達の国際輸送において、不揃いだった外装のサイズを統一してコンテナ内のスペースを有効に使用する積載方法を取っていますが、この活動を海外のサプライヤー発の貨物にも展開することで、さらにコンテナの本数を削減することができました。



コンテナへの積載状況

海外グループ会社の取り組み

主要海外グループ会社において、国際輸送・域内輸送のCO₂排出量の計測を開始しました。

富士通テクノロジーソリューションズ（FTS）では、製品・調達部材の輸送に関連するCO₂排出量の計測と削減活動に取り組み、グリーン物流活動を推進しております。

製品輸送距離の短縮

中国で生産しているPC用ディスプレイは、従来ヨーロッパを経由して中東、トルコ、南アフリカに輸送していましたが、これらの地域に中国から直接輸送する方法に切り替えました。

APAC地域で販売するサーバ、PRIMERGYは、従来ドイツから出荷していましたが、原則日本からの出荷に切り替えました。

またドイツ国内では、アウグスブルグの工場から配送センターを経由せず、製品を最終顧客まで直送する仕組みを確立しました。

モーダルシフトの推進

ドイツ国内工場で使用するアジアからの調達部材の輸送について、航空輸送から海上輸送へとシフトする取組みを行っていません。また、ドイツからモンゴル向けのパソコン製品輸送で航空輸送から鉄道輸送に切替えを行うなどモーダルシフトを推進しています。

梱包改善、コンテナ積み付け方法の改善

中国からドイツまでの調達部材の海上輸送では、コンテナ積み付け方法の改善を行い、積載率を向上させています。また、日

本からドイツへのノートパソコンの航空輸送の際に使用する梱包材の削減を推進しています。

貨物の集約による輸送効率化

コンテナの充填率を高めるために、調達部材の発注量の調整や複数の調達先からの小口貨物を同一コンテナへ集約するなどの取り組みを行い、中国をはじめとする調達先からの海上輸送の効率化を図っています。

包装に伴う環境負荷の低減

富士通グループでは、物流プロセス全体で環境負荷の低減を図るべく、製品や部品の包装における3R（注1）化を推進しています。

包装資材の使用量削減

富士通グループの製品に使用する段ボールなどの包装資材について、リユース可能な代替品への切り替えを推進しました。その結果、段ボールや緩衝材などの使用量を削減することができました。

（注1）3R：

Reduce（廃棄物の発生抑制）、Reuse（再使用）、Recycle（再資源化）。

（注2）グリーンエコベルト：

DHLサプライチェーン株式会社とエコビズ株式会社の共同開発。

- [製品的环境配慮](#) [包装材へ環境配慮](#)



荷崩れ防止用ベルト「グリーンエコベルト（注2）」